

特集1 特殊詐欺の現状と対策

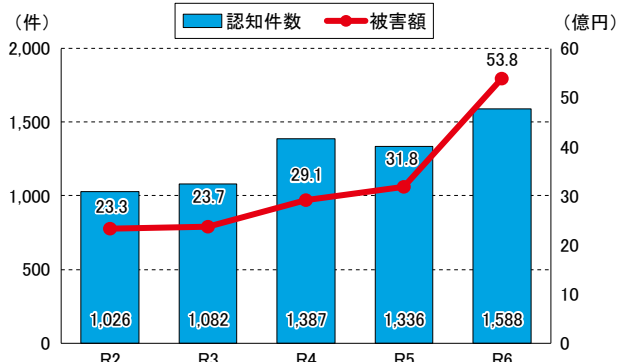
特殊詐欺：被害者に電話等で対面することなく信用させ、指定した口座への振込み等の方法により、不特定多数の者から現金等をだまし取る犯罪（現金等を脅し取る恐喝及びキャッシュカード詐欺盗を含む）の総称

注1：被害額は、だまし取られるなどしたキャッシュカードによって不正に引き出された金額を含む

注2：令和6年中の数値は暫定値

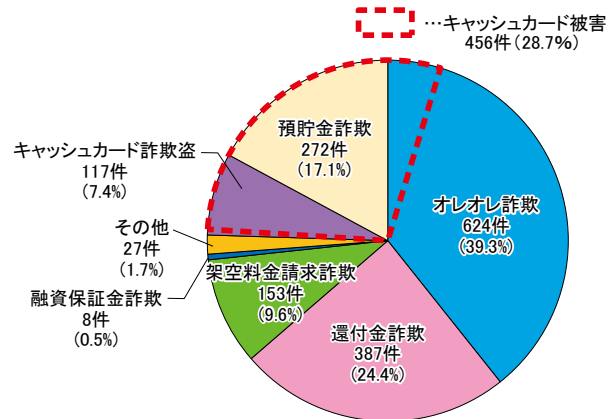
1 被害状況

認知件数・被害額の推移

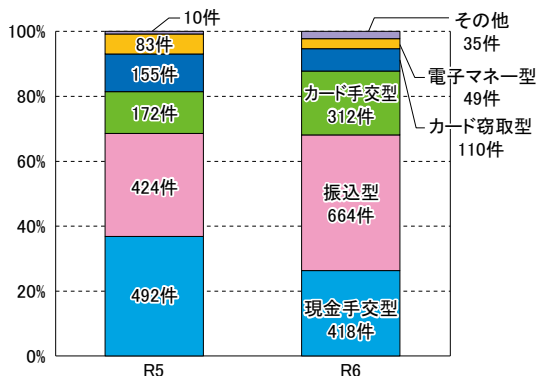


令和6年中の認知件数及び被害額は、過去最多となっております。

犯行の手口 (令和6年中)

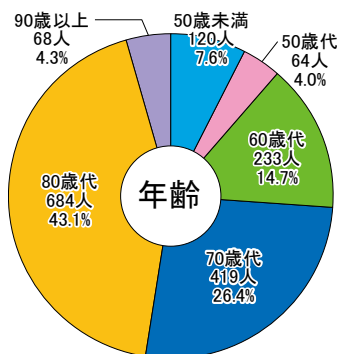


被害の主たる交付形態別割合

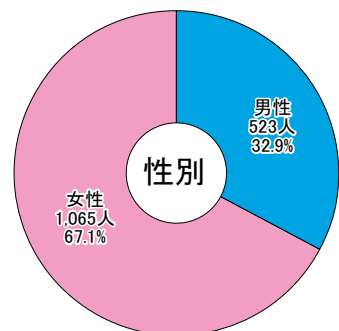


現金手交型が減少し、振込型とカード手交型が大幅に増加しています。

被害者の年齢 (令和6年中)

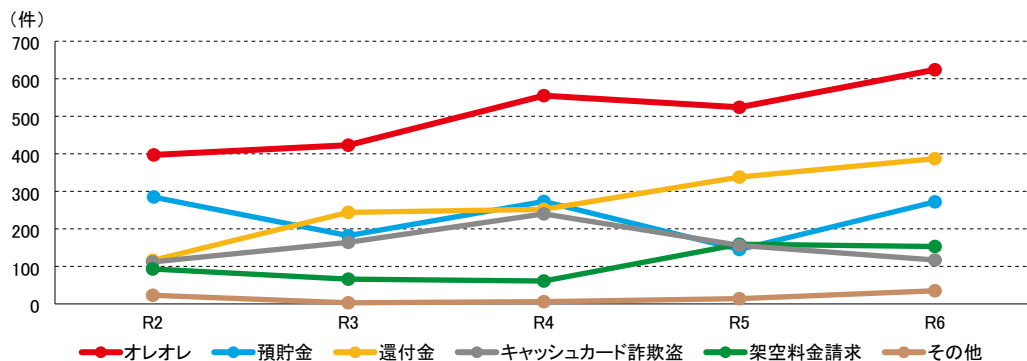


被害者の性別 (令和6年中)



被害者の年齢別では80歳代の割合が約43%と最も多く、性別では女性の割合が約67%となっています

手口別件数推移



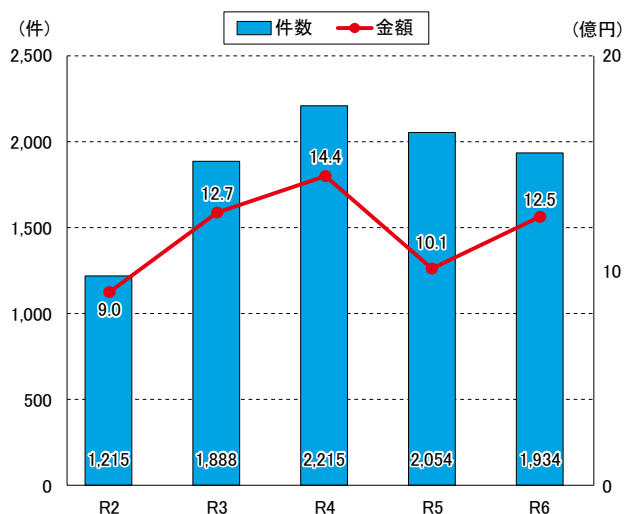
手口別認知件数では、オレオレ詐欺が最も多く発生しました。また、還付金詐欺は、令和4年から年々増加し、令和6年は過去最多の被害となりました。

2 被害防止対策

県警察では、自治体、自主防犯活動団体、事業者等と連携し、官民一体となった被害防止対策を推進しています。

令和6年中、悪用された口座の情報を共有して、県内に本店を置く25の金融機関との間で、被害防止等につなげる全国初の協定を締結したほか、県内のコンビニエンスストアに対する還付金詐欺被害者等に声を掛ける際に活用する声掛けボードの配付、自治体、自主防犯活動団体等と連携した戸別訪問による被害防止対策の呼びかけ等を実施しました。

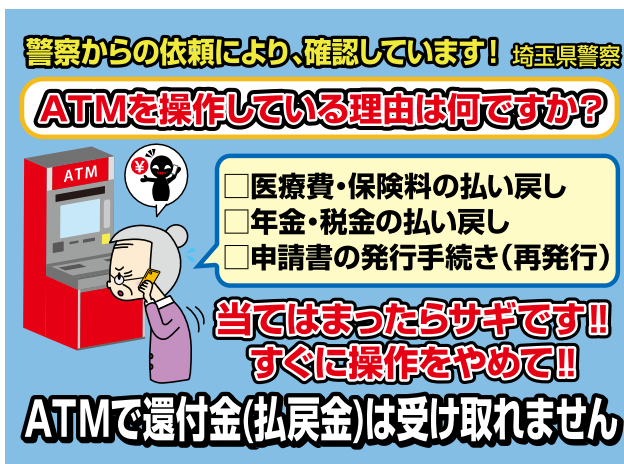
被害防止件数・金額の推移



金融機関との協定締結式



コンビニエンスストア用声掛けボード



事業者と連携した被害防止キャンペーン



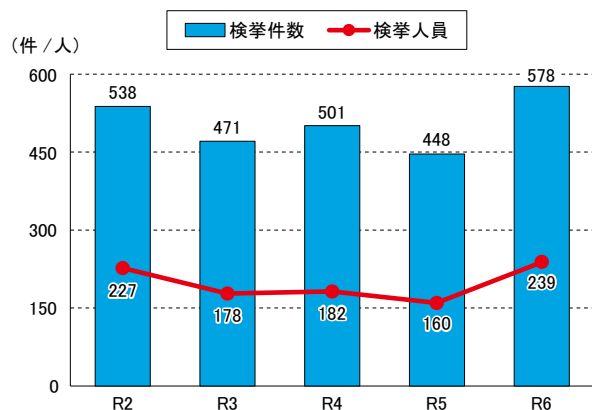
自治体等と連携した戸別訪問



3 主な検挙対策

職務質問や県民の協力による「だまされたふり作戦」、犯行拠点及び悪質電話事業者の摘発等を推進しています。

検挙件数・人員の推移



職務質問による検挙活動(訓練)



海外犯行拠点の摘発



悪質電話事業者の摘発



《令和6年中の主な検挙》

- 海外犯行拠点における特殊詐欺事件の検挙 (組織犯罪対策第三課、大宮署)
- 犯行ツール(犯行使用電話)提供者に対する詐欺事件の検挙 (組織犯罪対策第三課、所沢署)

コラム

県警察では、特殊詐欺被害を防止していただいた一般の方に対する「水際防止功労者証」の交付と、留守番電話設定テスト合格者に対する「留守番電話設定認定証」の2種の証明書を交付しています。

県内の協賛店において、証明書を提示すると、入場無料等の特典が受けられます。(詳細は二次元コード→)



水際防止功労者



留守番電話設定テスト